

ホームカミングデー 高齢者福祉分野②分科会 (高橋誠一先生)

<参加者の抱えている現状・問題点となど分科会では下記のような件を話し合いました>

- ・ NPO法人一万人市民委員会にて、介護保険制度の学習会を開催している。

高齢者は介護保険を始め、社会保障制度についてあまり知らない方が多い。

住民税非課税の世帯で、要介護度が重度になった場合、介護保険法の改正にあたり今後自己負担が2割になった場合、サービス受給が難しくならないのか？等介護保険法の現状と今後の方向性が持つ問題点などを危惧している。

<http://www.ichimannin.com/index.htm>

- ・ 今後の要支援の扱いはどうなるのか。

→高橋先生より 要支援は市町村の独自事業へ変更になりそう。横出しサービスは裕福な市町村であれば可能だろうが、もともと財政に余裕がないところが多い。判定に関しても、全般的に軽めに判定が出て、サービスが必要なひともし自立になるかもしれない、という憶測もあるようだ。

- ・ 80～90代ぐらいになれば、食事をとれなくなってくるのは当たり前だ、というような主治医の説明などを受け止められないなど、老化を理解・受容して頂けなかったりする家族がいる。また、終末期の利用者の家族の認識や意向と、現在の医療・福祉の中での「看取り」の現状とが融和しなかったりするなど、対応が難しいことが多い。より良い「看取り」について、広く一般のひとへ見識を深め、考えてもらうにはどうすればいいか。

→高橋先生より エンディングノートの活用をしてみてもいい。元気なうちに家族と一緒にしておくのと後々役に立つと思われる。

- ・ 成年後見人をしているが、在宅型老人ホームの居室に鍵がかかっていることについて、その施設長に「ここは鍵をかけることが条件」と言われ、虐待にならないのか疑問に思う。他の関係者（ケアマネなど）に報告すると、良い顔をされない現状。

財産管理しか行わず、適切な身体監護を行っていない成年後見人もいるようだ。質の向上が求められるのでは。

また、医療行為の同意権を持ってないので、何かあったときに医師とどのように接すればいいのか不安である。

→高橋先生より 認知症のサポーターに対する「法律講座」などの研修も必要になるだろう。虐待が疑われるような場合は、地域包括支援センターへ報告するなど、行動をとってほしい。

- ・ ショートステイ事業所の相談員をやっているが、稼働率を上げるのが難しい。経営者からノルマを課されていて、問題にならないのか心配である。